# 屋上に咲く花

結城　昌之（ゆしろ　まさゆき）
星野　小路（ほしの　こうじ）
園原　美花(そのはら　みはな)
羽生　快生（はぶ　かいせい）
朝霧　風香（あさぎり　ふうか）
先生
看護師
流れ者1
流れ者2
流れ者3

1

病院の屋上

1　ねえ知ってる？この病院のロマンチックなう・わ・さ！

3　ロマンチック？

2　噂？

1　知らないの？ふーん。ここはねー尊い聖地なんだよー？

3　聖地？

1　この病院には、ある伝説の女優さんが入院してたの。

2　女優さん？

3　そんな噂聞いたことない。どうせ作り話でしょ。

2　いや、私聞いたことあるかも！この病院で5年間眠ってたっていう…

3　5年？！（笑いながら）いやいやウソウソないない。こんな田舎の病院に5年も寝たきりじゃ死んじゃう！

1　信じるか信じないかは、あなた次第です。

3　はあ？（笑いながら）

2　嘘でもまあ、面白ければ良くない？

3　面白ければの話でしょ。こいつの話が面白かった試しはない。一切ない。

1　いいや今回は自信がある。聞いて後悔はないよ。

2　ハイハイ。じゃあ早く本題入って。

1　（コンディションを整える）ええー

風香出る

風香　これは今より少し前のお話。

1　ちょ、え、え？誰？

風香　ここで貴方たちと会えたのも、何かの縁だし。証人の私が、全部教えてあげる。

全員はける

2

美花布団に入る。

病室　美花の夢

看護師出る　土と枯れた花びらが入った皿を持ってくる

看護師　失礼します。美花さーん。ご飯を持ってきましたよー。

美花　ありがとうございます！私、すごくお腹が空いているんです。

看護師　それじゃあ待ちくたびれたんじゃない？そんな美花さんにちょうど良かった！今日の献立は最高よ。

美花　本当ですか？

看護師　ほら、いい香りがするでしょう？

美花　え？

看護師　美味しそうでしょう？

美花　これを、食べるんですか？

看護師　自然をそのまま生かした養分たっぷりのご飯ですよ。なかなかない贅沢品だ。

美花　…ごめんなさい。いくら健康に良いとは言っても、土は食べられません。それに、この花びらも枯れていて、とても食べられるものとは思えません。

看護師　…食べられない？…信じられない。これ以上食べなくなったら、どうやって生きていくんですか！いくら嫌いでも、あなたの栄養はこれだけなのよ！食べなさい。
美花　…嫌です！やめて下さい！
看護師　食べなさい。嫌だと言っても無駄です。…貴方はもう、動けないんだから。
土を無理やり食べさせようとする　SE砂を噛む音
暗転
看護師はける
3
一日目朝　小路出る
小路　…お前は一体、どんな夢を見てるんだ？そっちは楽しいのか？…起きるつもりがないなら、ここに余計なもんは残すなよ？…親御さんも心配するだろうし。（意識）戻んのか戻んねーのかはっきりしろ…なあ！…ほんと、どうにかなんねーのかよ。
SEノック音
昌之出る
昌之　失礼します。おぉ！星野さんじゃないですか！
小路　ああ…ども。
昌之　久しぶりですねー！ほら、主治医が変わってから全く見なかったからー。今でもよくお見舞いに来てるんですか？
小路　…そーすね。俺しか来ませんし。
昌之　ちなみに、ですが。今日がなんの日かわかりますか？
小路　はあ？（舌打ち）…5年。
昌之　おお！さすがですね。毎日お見舞いに来ているだけのことはある。

小路　ほんと、ばかばかしい。…俺が来たところで、こいつはなんっも変わんねーし。
昌之　何も変わらない。ですか…私は、そんな風には思いませんが。
小路　変わってねーすよ。こいつがここに来て5年。こいつも、俺も。何も…
昌之　これだけ忘れないでいてくれる人は、なかなかいません。
小路　毎日こいつの顔見てれば、無理な話っすよ。忘れたくても、無理。こいつ、全然年取っている様に見えねーし。
昌之　そうですね、とても美しく見える。
小路　…ほんとむかつく。ずるい奴だよ。
昌之　星野さんは確か、市外にお住まいでしたよね。よくもまあ、通い続けるものだ。
小路　揶揄ってます？
昌之　いえ。私はこれでも、ここの院長です。貴方がいれば、彼女はいずれ目を覚ますと思いますよ。
小路　は？…そんな事、簡単に言わないで下さい。…冗談でも、俺みたいなやつに言うことじゃない。
昌之　そうですね、期待させようというつもりはありませんが、私はいつだって本気ですよ。いくら失敗をしようと、信じているから成し遂げられると思っています。
小路　ポジティブっすね。医者なのに。俺にはもう、そういう考え方は無理。
昌之　本当ですか？ではなぜ、星野さんは毎日、ここへ通い続けるのでしょう。
小路　もう時期飽きますよ。てかそんなの、あんたには関係ねーだろ？
昌之　信じられないような事も、本気で信じ続ければ、いずれ現実となり、事実となる。
小路　はっ。綺麗事抜かしやがって。
昌之　これは、逃げじゃない。貴方は、美花さん信じ、美花さんと共に、深い眠りの底で戦っているのですよ。
小路　何が言いたいんすか。俺は別に、習慣になったから来てるだけっすよ。

昌之　医学を超えて、歴史を塗り替えるのは、いつだって、誰も成し遂げることができなかった、信じられないような事。どうにもならないことをどうにかするのが人間だと。私は思います。

小路　俺に、何を信じろと。

昌之　…本当は貴方も、分かっているのでは？

小路　さっきからベラベラとテキトーなこと…鬱陶しい鬱陶しい鬱陶しい鬱陶しい！！！ああ、鬱陶しい！あんた、さては薮医者だな？

昌之　（笑みを浮かべて）薮医者の語源は、養父（やぶ）という所に身を潜めた『名医』なんですよ？

小路　俺は馬鹿にしてんだよ。

昌之　すみません。余計なことまで話してしまいましたね。お邪魔しすぎたかもしれない。私の話は忘れて、どうぞ、ごゆっくりしていってください。何度来ても、お見舞いに料金は発生致しませんから。

昌之出る。

小路　…バカ医者が。

美花の部屋にあるCDプレイヤーの蓋を開けて、CDを入れ、再生する。小路途中まで軽く歌う

「花は咲く」

小路はける

美花　どこ、ここ…？この曲、知ってる。この声も、絶対知ってる。誰だっけ？

　私も、そこにいるんだっけ？…私は、どこに居るんだっけ。どこに居れば、正解なの？

場転

４　二日目の朝

　美花目を覚ます。

美花　…眩しい。(ゆっくりと起き上がる)あー、よく寝たー…ここは…病院？って事は、私ったらまた栄養失調で運ばれたのね。(伸びをしながら)…体が、重いわー。

小路入る

美花　(目があって)貴方は…誰ですか？

小路　…は？

美花　あー…ここは、私の部屋です。お部屋を間違えたのでは？

小路　美花…？だよな…お前…目が覚めたのか？

美花　…？その服装では分かりませんでしたが、お医者様…ですか？

小路　いや。…お前、もしかして、覚えてないのか？

美花　何をです？

小路　…アホか。

美花　初対面の人に、何てことを言うんですか？！貴方、お医者様ではない様ですね。

小路　俺のこと、何も分かんない？

美花　知りませんよ。でも、医者で無い事は分かります。こんな失礼な医者は居ません。

小路　正解だ。だがな、あんたの方がよっぽど失礼な奴だぞ。

美花　貴方に何が分かると言うのですか。

小路　…

美花　はあ、お医者様を呼んで下さい。話はそこからです。

小路　…分かった。良いだろう。

小路はける

美花病室に置いてある花瓶のイヌホウズキの花を見る

美花　何だか、生き生きしてるわね。いいなあ。私も、こうだったら良いのに。咲くだけ咲いて、後はさっさと枯れて無くなれば、皆んなの記憶には、咲いている時だけが残る。それがいいわ。ずっと咲いていたいとは思わない。ただ、萎れているのは1番目障りなの。

小路、快生続けて出る

小路　ほら、自分の眼で確かめてください。

快生　失礼しま～す。

小路　これが、5年間一度も起きなかった園原美花ですよ。

快生　ええ～！？美花ちゃん！？大丈夫？あー！動かないで！…意識は…ある？みたいだね…

美花　はい？もちろん有ります。

快生　あー良かった！えー、えーっと、今日が何月何日かは、分かる？

美花　ええと…冬ですよね。

快生　えーすごい！！合ってる！さすが美花ちゃん！(大袈裟に褒める)じゃあ、ここに来た理由は覚えてる？

美花　栄養失調、ですよね。大丈夫です。もう慣れているので。

快生　(真剣な声色で)…良いですか。落ち着いて聞いてください。(小声で)こう言う事一回行ってみたかったんだよね～。…ええー、美花さんは、原因不明の病で、5年間も、5年間も眠り続けてたのです。

美花　え…？

小路　こいつ、何も覚えてないんすよ！…俺の事も…

快生　それは…(美花の方を見て)あーだいじょぶ！美花ちゃんのせいじゃないよ。

美花　何言ってるんですか？よくわかりませんが。私はきっと、いつものように低血糖で倒れたんです。人間違いですよ。

快生　…今は整理がつかないと思うけど、大丈夫。いずれ分かる。

美花　何が何だか分からないけれど、先生がそう言うなら、分かりました。
小路　俺、もう帰ります。失礼しました。
快生　報告ー、ありがとねー。
小路　誰でもしますよ。そのくらい。
小路はける
快生　あーしまった！ごめん美花ちゃん！ちょっとここで待ってて。すぐに、戻って来るから。
美花　はい。
快生走ってはける
美花　そんなに急ぐ必要があるのかしら。(伸びをしながら)…このベッドが悪かったのか、なんだか、すごく体が硬くなってる。
昌之出る
昌之　失礼します。
美花　こんにちは。お医者様…ですか？
昌之　ああ、園原さん。よくぞ目覚めて下さいました！貴方の様に美しい方が、眠っているだけというのは勿体無い！私はずっと待ち望んでいたのです。貴方の運命の方が遂に口付けを…
快生急いで出る
快生　ごっごめんごめんごめん！こ～の人は、こう見えても優秀なお医者さん、だから！決して、怪しい物ではないよ！(息切れしながら)
美花　(笑いながら)面白い方々ね。
昌之　いやあ。本当に元気そうで良かった。美花さん。訳が分からないとは思いますが、この焦っている新人が、あなたの主治医です。
快生　ああーああー。勘違いを招きそうなことばっかり言うからー。美花ちゃん。安心してね。この変態じゃなくて、俺が君の主治医。
昌之　ああ。本当は私が美花さんの主治医なのに。この新人に横取りされてしまいました。

快生　横取りぃー！はっはっはっはー(ちゃらけた感じで)

昌之　美花さんは、確かに5年前、原因不明の病で倒れてしまいました。当時の検査では、ただ眠っているだけにも思える様な全く正常な状態でした。しかし事実、美花さんは長い間、意識を失ったままでした。

美花　本当なんですか？

快生　そんなこと急に言われても、信じられないよね。

美花　…そうですね。でも、言われてみれば確かに、長い間眠っていた様な気はします。

快生　ま～ずは、脳の検査ですかね。

美花　どうしよう…今の状況も、いまいち掴めないし、何をどうすれば良いのか…

昌之　そうですよね。まずは、リフレッシュが必要です。

快生・美花　リフレッシュ？

昌之　ええ。例えば、外の空気を吸ってみるとか。

美花　それは、いいかもしれません。病院には、無いんですか？庭とか…

昌之　残念ながら、庭は無いのですが…

美花　そうですか。なら、大丈夫です。この花で我慢します。

昌之　花が、お好きなんですか？

美花　はい。咲いている花は、美しいと思います。

快生　それなら、屋上に行ってみるのはどう？

美花　屋上ですか？

快生　そう！屋上には、花壇があるし。

美花　そうなんですか？でも、今の時期じゃあ、外の花は枯れていますよね。

快生　…まあ、確かに？
美花　なら、良いです。この花だけで。
昌之　全身で外の空気を浴びるだけでも、気持ちは軽くなると思いますよ。
美花　確かに、その通りです。でも、私は枯れた花を見たくないんです。
快生　意識しなければそんなに目につかないと思うけど…どうしても？
美花　どうしても。
昌之　そこまで仰るなら、花は、私が片付けておきましょうか。
美花　それは、そこまでして下さら無くても。
昌之　これも私達の仕事の内でしょう。
快生　まあ、美花ちゃんが嫌っていうなら、そのくらいはするよ。
美花　…ありがとうございます。親切なんですね。
昌之　とんでもない。ただのお節介です。
美花　…助かります。今の時期って、外は寒いですか？
快生　結構寒いよー。体も慣れてないだろうし、風邪ひかないようにね！
美花　わかりました。ありがとうございます。

場転

5　一日目の午後　屋上　快生、昌之はける。風香出る。美香、コートを着る。

風香　(空気を大きく吸い込み)風は今日も生きてるねー！(美花を見て)見ない顔だなあ。…こんにちは！

美花　こんにちは。貴方は…？
風香　私は風香。
美花　風香さん。
風香　貴方は？
美花　私は、美花です。美しい花と書いて。
風香　美花ちゃん。良い名前じゃん。
美花　ありがとうございます。
風香　美花ちゃんはここに来るの初めて？
美花　はい。初めて来ました。
風香　なら、ここの良いところいっぱい教えてあげるよ。
美花　ありがとうございます。風香さんは、よくここへ来られるのですか？
風香　うん。いっつも来てるよ！
美花　それは、健康にも良さそうですね。というか、そんな格好で、寒くないんですか。
風香　このくらいは慣れてるから平気、平気。美花ちゃんのそのコート真っ白で可愛い！似合ってる！
美花　ありがとうございます。お医者さんが外は寒いと言っていたので、羽織ってきました。
風香　なるほどね。あっお医者さんといえば、結城先生って知ってる？あのーちょーかっこいい先生！
美花　かっこいい先生？
風香　えっと、あのー、よく冗談言ってて、ちょっと変わったお医者さん！
美花　あー、愉快なお医者さんなら、ついさっき、話をしました。
風香　えっ本当に？

美花　ええ、多分。
風香　いいなあー。私、あの人好きなんだよねー
美花　え、そうなんですか？
風香　あっ、あ～もちろん恋バナじゃないよ！人として、かっこいいの。推し！そう。私の推し！
美花　推し？
風香　あれ、美花ちゃんにはいない？好きと言うより尊くて、憧れ、尊敬！みたいな人。
美花　よく、わかりません。
風香　そう？珍しいね。
美花　人には、あまり興味がないんですよね。
風香　そうなの？じゃあさ、自己紹介がてら、なんでも良いから美花ちゃんの好きな物教えて！
美花　私の、好きな物…花は、好きです。
風香　花？良いじゃん！それならーここにもあるよ！って、あれ？昨日はあったのに。
美花　それは、片付けて貰いました。
風香　え…？なんで？
美花　花は、枯れていたのでしょう？
風香　それはそうかも知れないけど、わざわざ片付ける必要は、なくない？
美花　枯れた花があったら、ここに来れなかったと思います。
風香　そんなに、嫌いなの？
美花　ええ、特にこんな時には。見たくありません。
風香　嫌な事でも…あった？

美花　まあ、そうですね。そんな感じです。
風香　でも、花が枯れるのは仕方がないよね。自然の事だし。
美花　花は、咲くために有るのです。
風香　そう？枯れなかったら、新しい花は咲けないよ？
美花　それはもう、表に出す様な物じゃ無いんですよ。
風香　えー…そっかー。私はそうは思わないな。
美花　風香さんは枯れた花を飾りますか？
風香　いいや。でも、花壇には枯れた姿もあってこそ、咲いた時の特別感がない？これぞ自然って感じで。
美花　自然に、価値を見出せるんですね。
風香　変化がないと、面白くないよ。
美花　良くない変化もあります。
風香　それは、そうかもだけど。でも私は、良くない変化も見逃したくないな。…だってさ、それで終わりってわけじゃないじゃん？
美花　終わりじゃない？花は枯れたら終わりです。
風香　いや。それは違うと思う。花は枯れた後、土になるし！
美花　土？そんなの、終わりも同然ですよ。
風香　美花ちゃん。土をなめちゃだめだよー。枯れた花からできた土だって、きっと大事な養分になる。花を美しくするのは、土かも。
美花　縁の下の力持ち、みたいな？
風香　そうそう。目立たない土が花をきれいにするって、ありそうな話じゃない？
美花　それは、分かります。でも土は、綺麗じゃない。
風香　花が好きなんだよね？それなら土にも感謝したほうが良いと思う。

美花　感謝して、何になるんですか？花には言葉が伝わったとしても、土には伝わらないでしょ？土なんて、死骸も同然なんですから。
風香　土は、目立たない様にしてるけどね、ちゃんと全部感じてると思う。花の気持ちも感じ取って、影で支えてるんだって。私はそう思う。
美花　(嘲笑しながら)土が、花を支えてる？こんなに、こんなに土が好きな人、初めて見ました。
風香　何がおかしいの？
美花　土にここまで熱くなる人は、きっと貴方だけですよ。
風香　そう。…美花ちゃんには、土のありがたみが分からないんだね。
美花　(静かに笑う)
風香　私は、心配だよ。
美花　…え？
風香　花も、養分なし水なし光なしじゃ枯れちゃうでしょ。
美花　…何の話ですか。
風香　一人で生きるのは、無理だと思う。
美花　それは分かってます。
風香　美花ちゃんがそんな態度とってたら、影で美花ちゃんの事支えてくれてる人も、みんな離れて行っちゃうよ。

昌之出る

昌之　こんにちは。
風香　…びっくりしたー！結城先生。急に声掛けないでくださいよー！
昌之　すみません。こういうタイミングを身測るのは苦手なんですよ。KYってやつですかね。…お二人は、早速お友達になったのですか？
美花　ええ、少し話していただけですが。
昌之　それが友の種子をまいた。と言う事です。

風香　友の種子、良い響きです！…あ、もうこんな時間。私はそろそろ、失礼しますね！
美花　また、どこかで。
風香はける
快生　美花ちゃん。どう？少しは気分変わった？
美花　ええ。少しは。
昌之　ここはとっても良いロケーションでしょう？
美花　そうですね。でも、私は咲いた花が見たいです。
快生　本当に、花が好きなんだね。
美花　好きですよ。好きになりました。
昌之　おや？どうやら私が聞いたプロファイリングとマッチしていない様ですね。
快生　何ですか？そのプロファイリングって…
昌之　君には伝えていなかったかな？
美花　寒くなって来たので、そろそろ私も、部屋に戻ります。
昌之　わかりました。また今度来ましょう。
美花はける
快生　俺にもそのプロファイリング、教えてください！
昌之　全く。図々しい方ですね。まあ良いでしょう。新人くんにはこのくらい教えてあげなくては。
快生　俺が、美花さんの主治医なんですから！
昌之　(咳払い)ええ。美花さんの知人や、家族の話では、彼女があそこまで花に執着のある方だとは聞いていませんでした。

快生　そうなんですか？でも、病院で話すネタなんて、それくらいしかないかもしれませんよ。カルテにも、そんな事書きません。特に必要って訳じゃない情報だし…

昌之　ええ。今はそうかもしれませんが。彼女の友人が変わってしまった事に悲しんで居るんですよ。

快生　友人…あっ星野さんの事ですか？

昌之　はい。

快生　でも、それは仕方ないことなんじゃないですか？

昌之　そうですね。それに、忘れていたとしても、何ヶ月か経てば思い出す事もあります。

快生　星野さんの気持ちも分かりますけど、今は原因の追究と、一早い退院が必要ですよね。

昌之　それはもちろんですが。まずは、美花さんが、孤独にならない様に動くべきだと思うんですよ。このままだと、美花さんは間違いなく、見捨てられてしまいます。

快生　え…そんな。でも、それは直接病気と関係する事じゃ無いですよね。それに、毎日様子を見に来ていた星野さんだっているし。

昌之　星野さんから聞くに、彼女は歌が好きだったそうです。その話しかしないくらいに。

快生　そうなんですか？目が覚めたばかりじゃ、そんな余裕はなくて当たり前な気もしますけど…

昌之　それに、花の事など一切聞かなかった。

快生　それは…だから、必ずしも言わなきゃいけないことでは無いし。

昌之　貴方も聞いたでしょう。貴方が美花さんに花が好きか尋ねた時…

快晴　僕達医者がそんな事を知って、何になるんですか？詮索しすぎはよくないです。

昌之　すみません。またまた必要のないなことを言ってしまいました。利益のない余計な話はやめましょう。

快生　えー、利益があれば話すんですね？

昌之　それは、はい。

快生　それはどうなんです？というか先生は一体何を考えてるんですか…
昌之　おや。割とヒントを出してあげているつもりなのですが。
快生　…わかってない僕が、馬鹿みたいじゃないですか！
昌之　大きな独り言ですね。美花さんの謎は、深まるばかりですが、貴方が貴方なりにが美花さんの健康を考えていることは分かりました。
快生　別に僕は、医者として当たり前のことを言ってるだけですよ。
昌之　よし。仕事はまだまだあります。ここで油を売っている暇はない。貴方も早く戻ったほうがいいんじゃないですか。新人くん。
快生　分かってます。名医の結城先生。
　　快生、昌之はける
6
病室　数日後の朝　美花ベッドに入る
美花　5年、5年って、どれくらい？私が倒れたのは、15歳で、みんなはもう…20歳？キラキラの高校生活を楽しんで、進路も決めて、卒業して。…夢に向かってるの？私はその間、ずっとここで、鉢に植った植物みたいに、何もせず眠っていたの？そんな、そんなの嘘でしょ。きっと、冗談よ！お医者さんは冗談を言っているんだわ。そうよ。私は動けるし、シワもないのに、どうして？私は人間！枯れてなんか、いないでしょう？
SEノックの音
美花　…どうぞ。
昌之入る
昌之　失礼します。
美花　どうしましたか？
昌之　調子はどうですか？
美花　大丈夫ですよ。お昼も、食べられます。

昌之　それは良かった。少し、聴きたいことがあるのですが。
美花　なんですか？
昌之　美花さんは、5年前のことをどのくらい覚えていますか？
美花　…それは前にも話したでしょう？
昌之　確認したいことがあるんです。星野小路さんのことはご存知でしょう？
美花　あの、よくわからない私服の方ですよね。
昌之　…はい。彼とはこの病院で初めて会いましたか？
美花　そうですが。何故そんな事を？
昌之　彼は、5年前から貴方の病室に通い続けています。
美花　そうなんですか？どうして？
昌之　本人に聞かなければ断言は出来ませんが。仲が良かったんでしょう。
美花　私と、星野さんが？
昌之　はい。初めて彼と会った時、彼の反応はどうでしたか？
美花　反応、ですか？目覚めたばかりだったので、はっきりとは覚えていませんが。
昌之　美花さんも、驚きませんでしたか？知らない人が病室に入って来て。
美花　特には。
昌之　おや？そうですか。
美花　ところで、私は、いつまでここに居ればいいのでしょうか。元々、私の体調はそこまで悪くないと思いますし、いつでも、退院できますよ。
昌之　そうですね。確かに、今の美花さんは、問題ないと思うかもしれません。ですが、すみません。もう少しだけここに居てもらう必要があるのです。

美花　どうしてですか？
昌之　記憶が戻らないからです。
美花　そんな事、今更気にしていませんよ。どうだって良いでしょう？帰る道も、家族の事も覚えていますし大事な事は、忘れていませんし。普通に、生きていけます。今のところ忘れているのは星野さんくらいでしょう。
昌之　そうですかね？この病院から出れば、知らない人だらけかも知れませんよ？
美花　それは、わかりません。分からなくて大丈夫です。
昌之　ですがもし、星野さんとの記憶だけが抜けているのであればそれはそれで気になりませんか？
美花　気になりますが、どうすれば良いんですか？
昌之　星野さんと、もう一度話をしてみませんか？
美花　…それは、もう少し待って貰えませんか？
昌之　知るのが、怖いですか？確かに、人は自己防衛の為に記憶をんなくすことがあります。だから、無理にとは言いません。
美花　もう、良いですか？
昌之　はい。私の話はこれだけです。失礼しました。
美花　私はもう、普通に生きれば良いわ
7場転　一ヶ月後の朝　病院廊下
　小路出る　手前昌之すれ違う
昌之　小路さん。お久しぶりです。
無視する小路の腕を掴む
昌之　貴方に、お聞きしたい事があるんです。
小路　俺ですか？すみません。貴方に会いに来たわけじゃないので。

昌之　美花さんは、変わっていませんよ。
小路　は？
昌之　記憶は戻っていません。
小路　そうですか。
昌之　屋上で、話をしませんか。
小路　なんで？俺と話して、何になるんですか？
昌之　貴方も、記憶のない美花さんと会うのは辛いのでしょう？
場転　屋上
昌之　美花さんは、最近よくここへ来られているそうですよ。
小路　美花が変わってないって。どう言う事ですか。
昌之　え？ああ、今も変わらず、状態良好だと言う事ですよ。
小路　記憶がないのに、状態良好？
昌之　それとこれとは、違った話になりますが。
小路　あんた、それでも医者なんだろ…
昌之　ええ。ですから、状態は良好と
小路　ふざけてんのか！お前、あいつは5年も目が醒めなかったんだぞ。
昌之　申し訳ありませんが、原因不明なものは、治療できなくても仕方がないのです。それに、結果的には以前と変わらず生きているのですから。
小路　以前と変わらず…？記憶がなくなっても、以前と変わらず暮らせる奴がいるか！…今まで、ずっと大人しく待っていたがな、目覚めなかったらどう責任を取るつもりだったんだ！
昌之　目を瞑り、眠っているだけだったので、むやみに手を加えるのも良くないかと。

小路　だからと言って、そのままにしていい理由にはならないだろ…
昌之　ここは、私の病院です。それに貴方は患者様のお知り合いというだけでしょう？
小路　…この病院にとっても、悪い話ではないだろ。原因不明の病を治したっていう噂が広まれば、街の方からももっと患者が来るだろうし。
昌之　それは、今後の話です。こちらも全く動いていない訳ではない。しかし、最優先事項は命。まずは、命を救わなければならない仕事なんです。
小路　こんな山奥の古ーい病院。他に誰が来るっていうんだよ。
昌之　山奥だから。ですよ。
小路　はあ？
昌之　とにかく、そんなに簡単な事ではないという事です。思い出は、また作れば良いでしょう？
小路　…こんな話をしに、引き留めたんですか。
昌之　いえ。前置きが長くなってしまいましたが、私はあるお願いがあって引き留めたんです。
小路　お願い…？
昌之　ええ。貴方にしかできないお願い事です。
小路　なんだよ。
昌之　貴方に、美花さんのことを教えてもらいたいのです。
小路　はあ？何でだよ！
昌之　美花さんに何か違和感を抱きませんでしたか。
小路　…それは、そりゃそうだ、記憶がなくなってれば。
昌之　私にはそれがいまいちハッキリしないんです。どこまでが過去の美花さんなのか。
小路　ハッキリしたところでどうするって言うんだよ！あんたたち医者は、原因究明に集中してくれれば良いんですよ。

昌之　それは、仰るとおりですが
小路　ハッキリ言って、ウザい！おっさんが首突っ込まないでくれますか？
昌之　君は分かっていない。
小路　まだ黙らないんですか。
昌之　確かに、私は医者で、患者の病気を治すのが最優先です。しかし、原因不明だからこそ、患者について調べなくてはいけない。
小路　それは、体調の事だけだろ。
昌之　体調の話ですよ。体調に関係してくる話です。
小路　他にも、医者を必要としている患者なんて、山ほどいる！
昌之　それは、分かっています。しかし…
小路　あんたはもう、主治医じゃないんだよ！…もう、貴方には任せたくないと言っているんです。
昌之　私は、貴方達のことが心配だ。
小路　はあ？美花はさて置き、俺はどうだって関係ないだろ？
昌之　過去に、貴方の様な方に、会ったことがある。貴方の様な、独りよがりの、ご友人さんに。
小路　独りよがり…？俺が、独りよがりだって？
昌之　貴方のことではなく。貴方とよく似た人のことです。患者さんの記憶の中に、自分は、いなくなってしまい。取り返しがつかなくなってしまったと、そう思い込んでいる。
小路　じゃあ、あいつと似た症例があったんすか…？
昌之　いえ。その方は、事故でした。
小路　そう…ですか。
昌之　そして、貴方よりもっと幼かった。

小路　…もう良いですよ。その話は、
昌之　関係ないと。仰るんですか？
小路　あんたと、話に来た訳では無いので。
昌之　貴方のために言っているんです。
小路　どこがだよ。
昌之　貴方には、未来がある。自分の人生を無碍にしてほしくないんだ。
小路　なんでわざわざそんなこと俺に言うんだ。俺は患者じゃない。
昌之　患者かどうかは関係ありません。いつも妄想止まりで、現実では何もできない。自分では綺麗に咲いていると思い込んで、本当は枯れたままの花。そんな人間はもう、見たくはありません。
小路　…信じろと、信じれば成功すると貴方は俺に言いましたよね。
昌之　貴方には、美花さんのことを信じて欲しい。目標を持って努力するのと、夢を見ているだけで何もしないのでは、大きな違いです。
小路　俺が、何もしてないって、言いたいんすか？
昌之　いえ。貴方には、そのままの現実を受け入れて欲しいのです。美花さんが記憶をなくした現実と、向き合って欲しい。
小路　…ここまで俺を引き留めて、言いたい事か…？
昌之　貴方に、分かって欲しいから。貴方と、美花さんの為に。医学を超えて、歴史を塗り替えるのは、いつだって、誰も成し遂げることができなかった、信じられないような事。
小路　奇跡、とか言うんでしょう？
昌之　そう簡単なことではありませんが。私は、貴方が今と昔、全てを受け入れて、美花さんを信じることに、価値を感じているのです。
小路　それで、俺が話せば変わるって？
昌之　はい。自信があります。

小路　…分かりましたよ。話せば良いんだろ？…言っておくが、アンタの為ではねーから。
昌之　…ありがとうございます。貴方はきっと、立派な大人になるでしょう。
小路　変な事言わないで下さい、気持ち悪い。
昌之　日々の決断が、人を成長させます。貴方が私に話すという決断をした事だけでも、大きな一歩なんですよ。
小路　俺がアンタの言いなりになるのは、今回だけですよ。
bgmフェードイン
昌之　ありがとうございます。
8　場転　過去　昌之はける
美花　出る　花は咲く　歌
小路　ああ、すんません。その、綺麗な歌声が聴こえてきたから。つい。
美花　ありがとうございます。貴方は？
小路　俺？俺は、ここの掃除をしに来ただけなんだけど。
美花　ああ…ごめんなさい。こんな、一人で歌っている人がいたら、やりづらいわよね。
小路　いや、違くて。歌、好きなの？
美花　好きよ。好きじゃなかったら、歌ってないわ。
小路　そう。すげーな。
美花　ありがとう？
小路　…なんか目指したりしてるの？
美花　え？どうして？
小路　いや。…上手かったから。歌手でも目指してるのかと思って。

美花　そんなの、無理よ。歌が上手い人なんて、山ほど居るし。
小路　そう？でも、褒められるでしょ？
美花　褒められても、目指せるとは思わないわ。
小路　俺は…目指してるよ。歌手じゃないけど。
美花　え？…そうなんだ。
小路　先生からも、親からもやめとけって言われるけど。
美花　そりゃそうよ。
小路　…なんか。お前の歌聞いて目え覚めたわ。
美花　え？
小路　こんなに上手いやつでも、好きで歌ってるだけなんだな。…だから上手いのかもしんねーけど。
場転　屋上のまま　先生入る
美花　失礼します。練習中なのに、すみません。その、進路のことで相談なのですが。
先生　園原さん。まだ高一なんだから、今決める必要はないでしょう。迷っているのかもしれないけれど、私が言えることは変わりませんよ。
美花　でも…
先生　たくさん悩みなさい。一番大事なのは、自分で選ぶこと。そうすればもし失敗してしまっても、後悔はないと思う。貴方は賢いんだし、いつでも道は変えられるんじゃない？
小路　…俺も…そう思います。
場転
小路　知り合いに、カラオケの割引券貰ったんだけど、二人じゃなきゃ使えないらしいんだ。
美花　カラオケ…？

小路　知らない？
美花　いや。知ってはいるんだけど、行ったことないんだよねー。
小路　本当？それは…損してるよ。
美花　歌なんて、どこでも歌えるでしょ？
小路　アカペラの話？
美花　歌は、曲が無くてもできんだから。わざわざ行かなくたって良いじゃない。
小路　ああ、もったいな。
美花　何がよ。
小路　普通さ、自慢したくならない？そんだけ歌上手いんだし。
美花　…ならないわ。私は、人がいると歌いづらいの。
9　場転　美花はける　昌之出る
昌之　…随分と強引ですね。
小路　仕方ないだろ。こうでもしないと、近づけなかったんだ。
昌之　そこまでして、近づきたかったんですか…？
小路　嫌な言い方だな。
昌之　歌声に、惹かれたんでしょう。
小路　…天才と同じ夢を、一緒に追いかければ、同じ景色が見えると思った。
昌之　やっぱり、独りよがりですね。
小路　はあ？そんな事言われるなら、もうこんな話しねーわ。

昌之　いえ。素敵です。こんな青春話、しばらく誰からも聞きませんでしたが、こういう話を聞くのは、いつになっても楽しいものですね。…もう少し、思い出話を聞かせて貰えませんか？

小路　そんな、いい話じゃねーよ。

昌之　いいえ。私にとっては、貴重なんですよ。病院の外の話をして下さるのは、貴方だけですから。

小路　本当に？

昌之　はい。それで、貴方はきっと、その後も粘り強かったんでしょう？

小路　粘り強いって…俺はただ、二人で夢を叶えたかっただけだ。俺だけじゃ、もう、何も出来ないんだよ。

昌之　それまたどうして。

小路　どうしてって…美花が、あいつの歌が世間で評価されないなら、そんな世の中なら、俺は夢を諦めるつもりだった。美花の意識が無くなった時、こんな俺が一人で夢を叶えるのは、卑怯なやり方だしな。

昌之　それで、勝手に夢を諦めたと。

小路　勝手にって、言い方は無いだろ。

昌之　すみません。ですがもし、貴方がその事で美花さんに苛立ちを覚えているのであれば、それは自分勝手に過ぎないのでは無いでしょうか。

小路　…そうだよ。俺は、そういう人間だよ。

昌之　そう悲観的になる必要もないと思いますよ。

小路　はあ？ああいえばこう言うな。何も知らないくせに偉そうな事言うなよ。

昌之　確かに、貴方の事は知りません。ですが、この話を聞いた理由は他にある。

小路　…何だ。

昌之　あなたの想いを確かめたかったんです。

小路　想い…？

昌之　貴方は、美花さんを楽しませたかったんでしょう？

小路　それは、

昌之　これでも私は、五年間あなた方の事を見てきました。貴方が、眠ったままの美花さんに、何度も話しかける姿を、見てきました。

小路　そんなのありかよ。

昌之　病室の前に行くと、聞こえてきたので。

小路　壁うっす！そんな事ある？

昌之　いやあ、聴診器の新しい使い方を生み出してしましました。

小路　聴診器？壁に聴診器当てる医者がいるか！

昌之　貴方の歌声なんかは、何度も聴こえてきました。時には音楽を流し、返ってこない返事に、涙を堪える姿も。

小路　覗いてんじゃないっすか！

昌之　あ。

小路　怖あー

昌之　ごほん。貴方の姿は、ずっと横目で見てきました。だから。絶対、諦めないで下さい。

小路　他人の事なのに。何故そこまでするんすか？

昌之　私の性分ですかね。

小路　…俺、まだ諦めてなんかいませんよ。

昌之　本当ですか？それは、良かった。貴方がそこまで真っ直ぐな想いを伝えてくれるとなんて。是非、頑張ってほしい。

小路　別に、貴方に応援される筋合いはありません。

BGM　夕焼けチャイム

昌之　そうですね。話をしていたら、もうすっかり夕方ですね。

小路　…学校の屋上からも、ここと同じ様に綺麗な夕焼けが見えました。

１０　人場転　また次の日　屋上　美花の夢

昌之　ああ、枯れてしまった。

小路　枯れた花に興味はねーよ。

風香　これならもう、土の方が良くなーい？

快晴　もうどうしようもないですよ。

全員　枯れた花は、片付けろ。

美花　私は枯れてなんかいないでしょ？！

場転

昌之　美花さん。美花さん！おはようございます。

美花　…おはよう、ございます。

昌之　顔色が悪いですね。

美花　私、枯れてなんかいませんよね？

昌之　え？それは、どう言う意味ですか？

美花　私、まだ生きていけますよね？

昌之　ええ、勿論。何かあったのですか？

美花　最近、おかしな夢ばかり見るんです。

昌之　美花さんが、文字通り花になる夢ですか？

美花　…すみません。今のは忘れて下さい。

昌之　大丈夫ですか？貴方が自分を責める必要は、無いでしょう？何より、貴方には未来がある。
美花　未来があっても、過ぎた時間は取り戻せないですよ。
昌之　それは、仕方ありません。自分を追い込んだ所で時間は取り戻せないんですよ。
美花　私はもう、どうすれば良いのかわからないんです。
昌之　貴方はもっと、自由になるべきだと思います。好きな事をすれば良いのです。いつ始めても、遅い事はありません。
美花　私に、夢を持つ資格なんてない。
昌之　資格なんていりませんよ。
美花　もう遅いんです。周りの人達は夢に向かって動き出しているのに。
昌之　周りは関係ありませんよ。
美花　そう言われても…
昌之　それに、貴方と同じ状況の人はいます。
美花　…どういうことですか。五年も眠っていたのは私だけでしょう？
昌之　はい。実際眠っていた訳ではありませんが。
美花　誰ですか？
昌之　星野さんですよ。
美花　星野さんが、同じ状況？
昌之　彼はずっと、貴方の事を待っているんです。
美花　私の事を？
昌之　夢を追うために、彼には貴方が必要なんだそうです。
美花　それで、どこが私と同じなんですか。

昌之　彼も、この五年間夢に向かって進む事が出来ませんでした。
美花　え？それは、自分の意志でしょう？
昌之　確かに、彼は眠っていた訳では無い。しかし、歩みを止めていたのは事実です。
美花　だから何だって言うんですか。そんなの、私がお願いした訳でも無いのに。どうして。そんなの、私には関係ないでしょ？
小路出る
昌之　それは、どうでしょう。
美花　過去の事なんて思い出しても…面倒事が増えるだけですよ。
小路　お前、本気で言ってるのか。自分で何言ってんのか、分かってんのか。
昌之　星野さん。
美花　貴方が私に何を言いたいのか、全く分かりませんが。余計な干渉はしないでください。迷惑なんですよ。
小路　俺が良くないんだよ。
昌之　美花さん。少しだけでも、この人の話を。
小路　お前、思い出せないんじゃなくて、本当は思い出したく無いだけだろ？
美花　ええ。過去なんて忘れて、したい事をしてやりますよ。
小路　なんで。なんでそんな事が言えるんだ。あんたには才能があるのに。
美花　私に才能なんて、ありません。だから。お願いだから、これ以上私に構わないで下さい。私にはもう、何も出来ません。もう、部屋に戻りますね。
小路　それでも！俺は、あんたが必要なんだよ！
美花はける

１１　場転　下手小路座る　昌之上手出る

昌之　失恋…ですね。

小路　そんなんじゃないっすよ。そんな…

昌之　そんな、単純なものじゃない、ですよね。分かっています。言葉で表すなら、あなた方は、同志です。

小路　同志…

昌之　今は、別の道を歩んでいるかも知れませんが、過去は過去でも、同志は同志です。

小路　俺は、あいつが何を考えているのか分からない。

昌之　それは、元からでしょう？貴方の話を聞いていれば、すれ違いばかりです。

小路　それでも、同志と言うんですか。

昌之　言えますよ。だって、貴方たちの目指すゴールは、同じでしょう？

小路　同じ、なのか？

昌之　このままでは勿体ないですよ。貴方は、美花さんのことを想って、夢を諦めかけた。と言うのに、もう諦めてしまうのですか？

小路　別に俺は、美花のことを想ってたわけじゃない。

昌之　それでも、夢を追いかけるために、彼女が必要なんでしょう？

小路　…俺は、一人じゃ何もできねーんだよ。

昌之　そんな貴方に、一つ提案なんですが。

小路　提案ってなんすか。言ってくが、俺は貴方の提案を何でも呑むつもりはねーぞ。

昌之　それは分かっています。

小路　それでも言うんだな。

昌之　はい。勿体ぶらずに話すとしましょうか。私は、誰にも知られることのないよう、ひっそりと研究を続けてきました。この、五年間。

小路　研究？
昌之　ええ。新薬開発の研究です。
小路　そんなの、医者がしていい仕事なのか？
昌之　だから、ひっそりと。なのです。私は、今、ここで、貴方だけにこの事を明かします。
小路　そんなこと言われても…俺は告げ口するかも知れねーぞ？
昌之　それは貴方の自由です。ですがそれは、結果が出てからにしてください。
小路　結果？
昌之　貴方がどの様な選択をしたとしても、必ず結果が出ることになるでしょう。
小路　どういう事だ？
昌之　貴方の選択で、美花さんと、貴方の未来が変わります。
小路　美花と、俺の？
昌之　はい。どんな選択をしても、です。
小路　そんな大袈裟な。新薬って、なんだよ。
昌之　美花さんの記憶を呼び戻す事が出来るかも知れません。
小路　は？そんなの、どうやって…
昌之　難しい話ではありません。
小路　本当なのか？
昌之　はい。私は今まで、患者や、その知人などと秘密裏に契約をしてきました。
小路　秘密裏？秘密裏ってなんだよ。
昌之　そして、多くの患者を救ってきたのです。そして、私は呼ばれました。名医だって。

小路　そんなの、医者のやり方じゃ無いだろ？
昌之　ここは、私の病院です。
小路　だからと言って、やって良いことと悪い事があるだろ。
昌之　誰にも彼にも提案をしている訳ではない。貴方と話をさせてもらっている内に、心が決まったのです。
小路　…でも、開発中って。
昌之　ええ。ですから、これが一発目の臨床実験になります。
小路　は？何言ってんだよ。
昌之　美花さんに言っても、聞いて貰えないでしょう？
小路　そんなの、おかしいだろ。患者を騙して、自分の利益にしようって言うのか？
昌之　自分の利益にしようなんて、思ってませんよ。
小路　思ってるだろ！美花を実験台にして、薬を金にしようって…
昌之　ああ。もちろん、謝礼は、たっぷりと用意してあります。
小路　謝礼？誰へ？
昌之　美花さんの事を一番思っている。貴方です。
小路　ふざけてんのか？！そんなもん受け取る訳ねーだろ！
昌之　そうですか？お金があれば、この五年間無駄にした時間も、取り戻せるかもしれませんよ。
小路　無駄にした時間…？見舞いが無駄だって言うのか？
昌之　大丈夫です。貴方が報酬を受け取っても、美花さんにバレることはありませんよ。
小路　バレる？お前…俺の話を聞いてたか？
昌之　はい？

小路　俺の想い、わかっただろ？わかった上で、言ってんのか？
昌之　だから、貴方の事を思って…
小路　俺がそんなに、自分勝手に見えた？あいつの意思も考えないで、自分のしたい事ばっかしてるように、見えたか？
昌之　それは、
小路　見えたって言えよ！俺は五年間ずっと、一人で、ただ一人で喋ってただけだって言え！独りよがりだっていつも馬鹿にしやがって…俺だって分かってんだよ…自分勝手で、見舞いに意味がねー事ぐらい…！
昌之　記憶を取り戻せば、きっと美花さんも分かってくれますよ。
小路　薬なんか使っても、昔に戻るわけじゃない。お前の力なんて使わなくても、美花の記憶くらいどうにかしてやる！
昌之　でも、
小路　いいから、俺の前から消えてくれ！…二度と顔を見せるな。
昌之　そうですか。それじゃあ、勝手にして下さい。
　昌之はける。
小路　俺らの事を想っているなんて、嘘だ…くっそ…！こんな事になるなら、もう全部捨ててやるよ。俺が、俺が絶対に治してやる…！
　小路走ってはける
１２　場転　美花の病室
ノック音　小路出る
小路　失礼します。
美花　また貴方ですか。
小路　何度もすみません。ここで会うのは、今日で最後にします。
美花　これ以上構うなと言ったはずでしょう？

小路　俺は、俺がしたい事をしているだけで…見返りなんかは求めてません。だから、貴方が聞きたく無いのであれば、無視して貰っても大丈夫です。

美花　そうですか。どちらにしろ、私はもうすぐで退院けど。

小路　そうだと思いました。だから、これ、受け取ってください。

花束を渡す

美花　受け取れません。こんなの渡されても、私は変わりませんよ。

小路　…そう、ですよね。

美花　…貴方は、私にどうして欲しいんですか？

小路　そんなの、

美花　どうせ私は何も出来ないのに、どうして貴方はそこまでするんですか！

小路　迷惑なら…すんません。

美花　五年も私を待っていたんでしょう？目覚めるかも分からない私を、待ち続けていたのに…謝るのは、私の方です。

小路　え？

美花　ごめんなさい。

小路　いや、だから俺は、勝手に来てるだけです。自分の為に、夢を諦めた口実を作る為に、来ていただけですよ。

美花　夢？

小路　あー、はい。実は俺、ミュージカル俳優目指してて、

美花　ミュージカル俳優？凄いです。

小路　でも、どうしても越えられそうにない、ライバルが居るんですよ。

美花　ライバル？

小路　すっげー悔しいけど、めっちゃ歌が上手くて。それが、あんただったんです。…なんて、急に言われても、反応しづらいっすよね。
美花　貴方のライバルが、私？
小路　ライバルっつーと、なんか違うかもしれねーけど。
美花　すみません。私、忘れてて。
小路　いや、そんな謝ることじゃなくて。
美花　前は、貴方に酷いこと言ったわね。思い出しても、無駄なんて。
小路　俺は、お前の…いや、美花の歌声を、もう一度聴きたかっただけなんだ。
美花　私の歌を？
小路　これはきっと、俺だけじゃないと思うし…美花の歌は、人を動かすくらいの力がある…から。
美花　ありがとう。…私も、もう一度歌ってみたいわ。
小路　え？
美花　先週、貴方が屋上へ来て、私が必要だって、言ってくれたでしょ？それでやっと、目が覚めたの。私を、必要としてくれる人がいるなんて、思わなくて。すごく嬉しかった。
小路　歌って、くれるのか？思い出したくなかったんだろ？
美花　怖かったんだと思う。五年間、何もせずにいて、こんな自分じゃ認めて貰えないって。思ってたから。今から夢を追いかけるなんて、馬鹿な話じゃない。
小路　そうだな。
美花　でも、今は、何故だか、凄く歌いたい。
小路　…じゃあ、歌うか？
美花　ここで？

小路　美花がいいなら…だけど。
美花　いいわ。歌いましょう。

二人で歌いながら暗転　小路美花はける　快生、昌之出る

１３　場転　病室の掃除

快生　僕には、あんなことできません。正直、見直しました！
昌之　おや、新人くんがそんな事を言ってくれるなんて。
快生　すっごく胡散臭かったですよ？通報でもされたら、取り返しのつかないことになりません？
昌之　通報されても、証拠はありませんよ。
快生　それはそうですけど、大掛かりすぎますよ～。
昌之　何でも、私は彼らを救いたかったんですよ。彼らがこれから歩む、夢のある人生を想像すると、愛おしくて。このまま見過ごすには、惜しかったんです。

風香出る

風香　また、結城先生の仕業だったんですね？
昌之　おや。風香さん。
快生　風香さんは、気づいてたんですか？
風香　そりゃあ、ここには長く居ますから！
快生　結城先生が名医…とか、何でこんなに賞賛されてるのか、分かってなかった。
風香　じゃあ、これでやっと分かってくれましたか？結城先生の良さ！…あれ、この花びら、何？(イヌ

ホオズキの花弁を拾う）

快生　僕も思いました。凄い数落ちてますよね。

昌之　ああ、それは、病室に飾っていた、イヌホウズキの花ですよ。…知っていますか？花言葉は…

全員　嘘

幕